

群馬県内自動車部品サプライヤーの設備投資計画

群馬経済研究所 主席研究員 河村英輝

調査のポイント

設備投資は、企業にとって、将来における事業活動の規模や内容を方向付ける重要な取り組みである。本稿では、群馬県内の自動車部品サプライヤーを対象に、今後3年間の設備投資計画について調査した結果をまとめた。

要約

- 県内自動車部品サプライヤーに行ったアンケート調査の結果、およそ半数が、今後3年間に「設備投資の予定がある」と回答した。
- 投資対象としては、「生産関連機械」を挙げる企業が8割と最も多かった。以下、「システム・ソフトウェア」、「工場・倉庫」、「車両運搬具」が続いた。
- 投資目的としては、「老朽化対応」が最も多く、「生産能力増強」、「合理化・省人化」がこれに続いた。
- アンケートでは投資目的として「HV、EV対応」を挙げる企業は少なかった。しかし地場完成車メーカーのSUBARUは2028年末までに自社開発のEVを販売する予定である。したがって、今後県内でも「HV、EV対応」の投資の動きがより明確に出てくるのではないかと考えられる。